

酪農経営

立地／土地条件：北海道／牧草地帯
 経営形態：家族経営
 経営タイプ：放牧主体型

1 経営の特徴

頭数を抑え放牧を最大限活用する（150日間）ことにより、生産コストと労働の軽減を図る。

- ・放牧により粗飼料給与率を向上させ、飼料費を低減するとともに、労働時間、ふん尿処理コストも低減。
- ・ゆとり確保のため、定期的にヘルパーを利用（36日／年）。
- ・堆肥、液肥は、自己経営内耕地に還元。

2 技術の特徴

- ・放牧の活用と牛群検定情報の活用による更新産次の延長。
- ・家畜排せつ物については、バークリーナーによってふんと尿を分離し、堆肥化・液肥化处理。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用：飼料作付延べ面積 69ha ②経産牛：60頭 ③生乳出荷量：492 t（実搾乳量） ④外部化：ヘルパー
飼養方式	繋ぎ飼い・パイプライン方式
牛	経産牛1頭当たり乳量：8,200kg 更新産次：5.5産
土・草	チモシーのサイレージ主体、集約放牧 飼料自給率：75% 粗飼料給与率：75% 堆肥利用方法：全量経営内利用
人	生乳1kg当たり生産コスト：49円 （現状との比較）（79%） 経営体所得：860万円 主たる従事者1人当たり所得：770万円 労働時間 総労働時間：4,890時間 家族（主たる従事者）：2,000時間×1人 家族（補助的従事者）：600時間×1人 雇用労働：2,290時間 1頭当たり飼養労働時間：71時間

酪農経営

立地／土地条件：北海道／牧草地帯
 経営形態：家族経営
 経営タイプ：技術高度化型

1 経営の特徴

現状の管理方式（繋ぎ飼い・パイプライン方式）と27年度の平均飼養規模において、生産・経営管理技術の高度化を図る。

- ・コントラクターを活用し、飼料生産コストを低減。
- ・ゆとり確保のため、定期的にヘルパーを利用（36日／年）
- ・堆肥、液肥は、自己経営内耕地に還元。

2 技術の特徴

- ・牛群検定情報の活用と徹底した個体管理による高い乳量と更新産次の延長。
- ・TMR（完全混合飼料）給与による飼料効率の向上。
- ・家畜排せつ物については、バークリーナーによってふんと尿を分離し、堆肥化・液肥化处理。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用：飼料作付延べ面積 64ha ②経産牛：80頭 ③生乳出荷量：688 t（実搾乳量） ④外部化：ヘルパー・コントラクター
飼養方式	繋ぎ飼い・パイプライン方式
牛	経産牛1頭当たり乳量：8,600kg 更新産次：5.0産
土・草	混播牧草のサイレージ主体 飼料自給率：70% 粗飼料給与率：70% 堆肥利用方法：全量経営内利用
人	生乳1kg当たり生産コスト：51円 （現状との比較）（77%） 経営体所得：980万円 主たる従事者1人当たり所得：790万円 労働時間 総労働時間：6,800時間 家族（主たる従事者）：2,000時間×1人 家族（補助的従事者）：1,200時間×1人 雇用労働：3,600時間 1頭当たり飼養労働時間：66時間

酪農経営

立地／土地条件：北海道／牧草地帯
 経営形態：家族経営
 経営タイプ：個人規模拡大型

1 経営の特徴

フリーストール・ミルクングパーラー方式、TMR、ほ乳ロボットの導入等生産技術の高度化により規模拡大を図る。

- ・効率的な飼養管理により、生産コスト、労働時間を低減。
- ・後継牛の育成に公共牧場を利用。
- ・コントラクターを活用し、飼料生産コストを低減。
- ・ゆとり確保のため、定期的にヘルパーを利用（36日／年）
- ・液肥は、自己経営内耕地に還元。

2 技術の特徴

- ・牛群検定情報の活用による生産性向上。
- ・ほ乳ロボットを利用したほ育。
- ・TMR（完全混合飼料）給与による飼料効率の向上。
- ・家畜排せつ物については、ふん尿混合のスラリーを液肥化处理。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用：飼料作付延べ面積 89ha ②経産牛：120頭 ③生乳出荷量：984 t（実搾乳量） ④外部化：公共牧場（育成）・ヘルパー ・コントラクター
飼養方式	フリーストール・ミルクングパーラー方式
牛	経産牛1頭当たり乳量：8,200kg 更新産次：4.5産
土・草	混播牧草のサイレージ主体 飼料自給率：70% 粗飼料給与率：70% 堆肥利用方法：全量経営内利用
人	生乳1kg当たり生産コスト：54円 （現状との比較）（81%） 経営体所得：1,020万円 主たる従事者1人当たり所得：830万円 労働時間 総労働時間：6,960時間 家族（主たる従事者）：2,000時間×1人 家族（補助的従事者）：1,200時間×1人 雇用労働：3,760時間 1頭当たり飼養労働時間：43時間

酪農経営

立地／土地条件：北海道／畑作地帯
 経営形態：法人経営
 経営タイプ：協業法人型

1 経営の特徴

3戸協業により生産性の向上、経営の合理化、労働の軽減（休日の確保）を図る。

- ・後継牛の育成に公共牧場を利用。
- ・ヘルパー、コントラクターは利用せず、雇用で対応。
- ・液肥は、自己経営内耕地に還元。

2 技術の特徴

- ・牛群検定情報の活用による生産性向上。
- ・ほ乳ロボットを利用したほ育。
- ・トウモロコシのサイレージによる草地利用性の向上。
- ・TMR（完全混合飼料）給与による飼料効率の向上。
- ・家畜排せつ物については、ふん尿混合のスラリーを液肥化处理。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用：飼料作付延べ面積 171ha ②経産牛：250頭 ③生乳出荷量：2,050 t（実搾乳量） ④外部化：公共牧場（育成）
飼養方式	フリーストール・ミルクングパーラー方式
牛	経産牛1頭当たり乳量：8,200kg 更新産次：4.0産
土・草	混播牧草・トウモロコシのサイレージ利用 飼料自給率：70% 粗飼料給与率：70% 堆肥利用方法：全量経営内利用
人	生乳1kg当たり生産コスト：52円 （現状との比較）（79%） 経営体所得：2,990万円 主たる従事者1人当たり所得：900万円 労働時間 総労働時間：11,780時間 主たる従事者：2,000時間×3人 補助的従事者：600時間×3人 雇用労働：3,980時間 1頭当たり飼養労働時間：32時間

酪農経営

立地／土地条件：都府県／畑作・水田地帯（寒冷地）
 経営形態：家族経営
 経営タイプ：技術高度化型

1 経営の特徴

現状の管理方式（繋ぎ飼い・パイプライン方式）と27年度の平均飼養規模において、生産・経営管理技術の高度化を図る。

- ・コントラクターを活用し、飼料生産コストを低減。
- ・ゆとり確保のため、定期的にヘルパーを利用（36日／年）
- ・堆肥、液肥は、自己経営内耕地及び地域内の耕地に還元。

2 技術の特徴

- ・牛群検定情報の活用と徹底した個体管理による高い乳量と更新産次の延長。
- ・トウモロコシのサイレージによる草地利用性の向上。
- ・家畜排せつ物については、バークリーナーによってふんと尿を分離し、堆肥化・液肥化处理。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用：飼料作付延べ面積 18ha ②経産牛：40頭 ③生乳出荷量：336 t（実搾乳量） ④外部化：ヘルパー・コントラクター
飼養方式	繋ぎ飼い・パイプライン方式
牛	経産牛1頭当たり乳量：8,400kg 更新産次：4.5産
土・草	混播牧草・トウモロコシのサイレージ利用 飼料自給率：45% 粗飼料給与率：50% 堆肥利用方法：経営内利用8割 経営外利用2割
人	生乳1kg当たり生産コスト：67円 （現状との比較）（82%） 経営体所得：790万円 主たる従事者1人当たり所得：590万円 労働時間 総労働時間：5,640時間 家族（主たる従事者）：2,000時間×1人 家族（補助的従事者）：1,200時間×1人 雇用労働：2,440時間 1頭当たり飼養労働時間：104時間

酪農経営

立地／土地条件：都府県／畑作・水田地帯（暖地）
 経営形態：家族経営
 経営タイプ：個人規模拡大型（繋ぎ飼い）

1 経営の特徴

現状の管理方式（繋ぎ飼い・パイプライン方式）で規模拡大を行い、生産・経営管理技術の高度化を図る。

- ・後継牛の育成に公共牧場を利用。
- ・コントラクターを活用し、飼料生産コストを低減。
- ・ゆとり確保のため、定期的にヘルパーを利用（36日／年）
- ・堆肥、液肥は、自己経営内耕地及び地域内の耕地に還元。

2 技術の特徴

- ・牛群検定情報の活用と徹底した個体管理による生産性向上。
- ・トウモロコシ、イタリアンのサイレージによる草地利用性の向上。
- ・耕畜連携によりWCSを利用するとともに堆肥を経営外で利用。
- ・TMR（完全混合飼料）給与による飼料効率の向上。
- ・家畜排せつ物については、バークリーナーによってふんと尿を分離し、堆肥化・液肥化处理。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用：飼料作付延べ面積 27ha ②経産牛：80頭 ③生乳出荷量：656 t（実搾乳量） ④外部化：公共牧場（育成）・ヘルパー ・コントラクター
飼養方式	繋ぎ飼い・パイプライン方式
牛	経産牛1頭当たり乳量：8,200kg 更新産次：4.0産
土・草	トウモロコシ・イタリアンのサイレージ及びWCS利用 飼料自給率：45% 粗飼料給与率：50% 堆肥利用方法：経営内利用6割 経営外利用4割
人	生乳1kg当たり生産コスト：64円 （現状との比較）（78%） 経営体所得：1,000万円 主たる従事者1人当たり所得：910万円 労働時間 総労働時間：6,300時間 家族（主たる従事者）：2,000時間×1人 家族（補助的従事者）：600時間×1人 雇用労働：3,700時間 1頭当たり飼養労働時間：63時間

酪農経営

立地／土地条件：都府県／畑作・水田地帯（寒冷地）
 経営形態：家族経営
 経営タイプ：個人規模拡大型（フリーバーン）

1 経営の特徴

フリーバーン・ミルクングパーラー方式、ほ乳ロボットの導入等生産技術の高度化により規模拡大を図る。

- ・効率的な飼養管理により、生産コスト、労働時間を低減。
- ・後継牛の育成に公共牧場を利用。
- ・コントラクターを活用し、飼料生産コストを低減。
- ・ゆとり確保のため、定期的にヘルパーを利用（36日／年）
- ・堆肥は、自己経営内耕地及び地域内の耕地に還元。

2 技術の特徴

- ・牛群検定情報の活用による生産性向上。
- ・トウモロコシのサイレージによる草地利用性の向上。
- ・TMR（完全混合飼料）給与による飼料効率の向上。
- ・家畜排せつ物については、ふん尿混合で堆肥化处理。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用：飼料作付延べ面積 43ha ②経産牛：120頭 ③生乳出荷量：960 t（実搾乳量） ④外部化：公共牧場（育成）・ヘルパー ・コントラクター
飼養方式	フリーバーン・ミルクングパーラー方式
牛	経産牛1頭当たり乳量：8,000kg 更新産次：4.0産
土・草	混播牧草・トウモロコシのサイレージ利用 飼料自給率：40% 粗飼料給与率：50% 堆肥利用方法：経営内利用7割 経営外利用3割
人	生乳1kg当たり生産コスト：63円 （現状との比較）（77%） 経営体所得：1,150万円 主たる従事者1人当たり所得：1,050万円 労働時間 総労働時間：8,380時間 家族（主たる従事者）：2,000時間×1人 家族（補助的従事者）：600時間×1人 雇用労働：5,780時間 1頭当たり飼養労働時間：60時間

酪農経営

立地／土地条件：都府県／畑作・水田地帯（暖地）
 経営形態：法人経営
 経営タイプ：協業法人型

1 経営の特徴

3戸協業により生産性の向上、経営の合理化、労働の軽減（休日の確保）を図る。

- ・後継牛の育成に公共牧場を利用。
- ・ヘルパーは利用せず、雇用で対応。
- ・堆肥は、自己経営内耕地及び地域内の耕地に還元。

2 技術の特徴

- ・牛群検定情報の活用による生産性向上。
- ・トウモロコシ、イタリアンのサイレージによる草地利用性の向上。
- ・TMR（完全混合飼料）給与による飼料効率の向上。
- ・家畜排せつ物については、ふん尿混合で堆肥化处理。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用：飼料作付延べ面積 50ha ②経産牛：200頭 ③生乳出荷量：1,600 t（実搾乳量） ④外部化：公共牧場（育成）
飼養方式	フリーバーン・ミルクングパーラー方式
牛	経産牛1頭当たり乳量：8,000kg 更新産次：4.0産
土・草	トウモロコシ・イタリアンのサイレージ利用 飼料自給率：35% 粗飼料給与率：50% 堆肥利用方法：経営内利用5割 経営外利用5割
人	生乳1kg当たり生産コスト：62円 （現状との比較）（75%） 経営体所得：3,180万円 主たる従事者1人当たり所得：970万円 労働時間 総労働時間：16,100時間 主たる従事者：2,000時間×1人 補助的従事者：600時間×1人 雇用労働：5,500時間 1頭当たり飼養労働時間：55時間